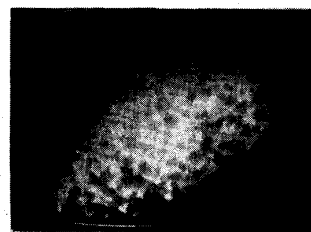


(15)

技術研究所 田口整司

圖-1 裝置構成



3. 高炉操業への適用 炉内部を直接観察できるため、多様な応用が可能である。応用例を表-1に示す。次に我々が活用している指数の一部を示す。

○この値は、経験的に1~3の範囲で正常な炉況と判断でき、3以上では、吹抜けと判定している。

表-1. 本装置の応用例

項目	内 容
装入機能	1. 炉内バー柵降り確認 2. 分配シフト旋回数確認
装入物挙動	1. 炉内流動化状況の把握 2. 異常炉況(柵すり、スリップ、吹抜、力減り)の検知 3. 装入物流れ込み現象の把握
特殊応用	1. 柵落し減圧時の柵落下確認 2. 炉内取水状況の確認 3. サウジングの代替 4. 移動式サウジングの駆動状況の確認

表-2 操業条件の異なる3期間における
各種の分布に関する情報

	通常期	銑物銑期	減産期
傾動 ボウ ン	CC 11233 56789	24444 56789	24444 56789
0.0	33444 44444	33333 44444	33344 44555
10			
ore/cake %			
分 存 (一)			
ガス 成分 (%)			
D (%)	38.3 (n=24)	54.3 (n=24)	36.2 (n=20)
I (-)	1.5 (n=24)	1.4 (n=24)	1.9 (n=20)

(1) 45回製鉄部会資料：鉄45-8-自1

- (2) 長井、田村、奥村ほか：鉄と鋼 60 (1974) P.16
(3) 長井、高橋、奥村ほか：鉄と鋼 63 (1977) P.22